

第6章 結論

動画システムが基本的に重要な技術であつことがわかった。それは、

- (1) 時系列を扱えること
- (2) 意味の変化を逐次記録できること
- (3) パターンマッチングとフレーム操作で意味処理に必要なことが全て実現できることである。

これにより、多くの応用が開けてくる。代表的なのは、

(1) 機械翻訳システム

入力文をエピソードに変換し、意味を得る。意味から等価な多言語での表現を生成する。また、エピソードからダイレクトに翻訳処理をするルートも設けることもできる。

それらは、意味の体系を各言語で設けることにより実現できることである。それが大変な作業になることであるが。

(2) 文書要約システム

キーとなる重要語や重要知識を指定して、文書を要約していくことが可能となる。その過程は第4章を参照されたい。

(3) 文書認識システム

あらかじめ決められた知識フレームを用意しておき、その中のスロットを動画システムを解析しながら埋めていく処理である。

以上